

自分は1997年、熊谷先生とD Brattal先生の「C1,C2は要治療か？」という学術講演会を聞いて、衝撃を受けました。それから予防を大切にした歯科医療を目指すも、なにか中途半端。2013年、ある先生のお世話で日吉歯科出身の先生方のお話を聞くチャンスを得て、またしっかり予防をやりたくなり2014年OPセミナーを受講、またOPとしての厳しい覚悟を突きつけられました。

熊谷先生は日吉歯科において、キチンと管理する事で健康な口腔を守る事が日本でも出来ることを証明されたわけで、判っているなら当たり前のことをキチンとやりたくなった訳です。補綴だらけの口腔より、健康な歯をみんなに持ってもらいたい。残った歯を守ってもらいたい。日吉歯科を目指しながら、その源流を学びたく今回マルメ研修に参加しました。

到着直後のパーティで、「歯科医療の技術やシステムを学ぶのではなく、歯科医療哲学を学んでほしい」という熊谷先生の言葉が読み上げられました。「システムより医療哲学を学べ。」マルメ研修を終わった今、本当にそう思います。フッ素の利用法やカリエスの進行と介入時期、人頭払いのシステムなど細かい発見もたくさん有りましたが、「スウェーデンの歯科医療は、実質的価値のある教育、予防に焦点を当てること、臨床に関連した質の高い研究によってここまで来たのだ」というD Ericson教授の言葉どおりの、本当に人の健康を守る哲学が有りました。

この研修を通して自院の患者さんの口腔の健康を守っていくにはどうすべき考え、宮本先生が最後のスピーチで仰ったように、歯科医療の現状を単純に嘆き続けるのではなく、新たなステージに自分から進みたいと本当に思います。

この研修を企画していただいた熊谷崇先生、コーディネーターであるオーラルケア大竹社長及びスタッフ、マルメ大学の素晴らしい講師の先生方、みなさまに深く感謝します。